

【異物混入】生産ラインの樹脂の一部破損 約20万個自主回収



※写真はイメージです。

豚まんなどを製造販売する「551蓬莱」（大阪市浪速区）は17日、豚まんの材料に異物が入っていたことを明らかにした。異物混入が判明するのは2日連続。同社は17日午後3時以降、全61店舗と通販での販売を取りやめ、16日に製造した約19万6600個と17日の製造分の自主回収を進めている。健康被害は確認されていない。同社によると、店舗で豚まんを製造していた従業員が17日昼頃、樹脂片があんの中に入っているのを見つけた。同社工場の生産ラインでは16日にも、水はね防止カバーの一部が欠損し、あんに樹脂片が混入するトラブルが起きていた。除去作業が不徹底で、生産ラインに樹脂片が残ったままになっていたとみられる。（引用転載：2024年3月17日(日)19:04 読売新聞オンラインより）

洗浄作業時や作業終了時の点検による異常を見逃さない

この異物は玉ねぎ洗浄ラインの水はね防止カバーの一部が破損し、樹脂片が餡に混入した異物混入事故です。これは作業者が後工程で異物の混入を発見し、報告され、製品回収プログラムが発動されています。製品回収の対応スピードはとても早く、リスク回避が機能しています。根本原因は水はねカバーがいつ破損したか、特定できなかったこと、と推測されます。作業の前後に、水はねカバーの状態を確認する点検チェックリストがあるかどうか、また製造ラインの洗浄手順の適切性を検証する運用が行われているかが重要です。さらに、水はねカバーが経年劣化によって破損するタイミングを管理する方法があるかどうか検討すべきです。定められた手順が遵守されているか、また変化に気づいた場合にそれが報告されるシステムが機能しているかを確認しましょう。

■ 原因の推測

問題となった事象	原因を考えるポイント
生産ラインの一部が破損	① 作業前や作業後の設備の点検管理内容は十分であったか？
	② 項目通りにチェックされていたか？

■ 対策案

作業現場がいつもと同じ風景ではなく、見逃してはならないポイントをチェックするためには、目的意識が重要です。作業者が目的を理解し、作業の出来栄をチェックできるかがポイントです。チェックが複雑すぎると、見落としや熟練者以外が理解できなくなる恐れがあります。だれでも簡単に理解できる仕組みが必要です。

▼ チェックを簡素にするポイント 誰でも簡単に整理・整頓できる仕組みを作る

提案する清掃用具	選択する理由
<p>7S77 ブラシ管理の新・清潔習慣</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 収納を“しつけ”のスタートに ● ブラシをかける背面パネルにブラシごとのシルエットを印刷することで、見たままの直感的な収納を実現 ● 定位置管理が自ずとできるため、定数管理のしやすさも向上。 ● 作業へのブラシの使い方、保管方法についても弊社担当がサポートし、しつけの定着を実現させます。

(株)バーテックでは、このような事故の予防のため、食品製造業向けのブラシの提案だけでなく、現場の作業員から普段の清掃作業で求められている結果を得られているかなどを聞き取り、清掃マニュアルをはじめとする食品製造現場の衛生管理レベルの向上をお手伝いしています。まずは、**弊社営業担当者、またはメールアドレス（is@burrtec.co.jp）**までご相談ください。